

高崎文化芸術センター（仮称）

実施設計の概要



外觀透視圖
(北東晝景)



外觀透視図
(北東夕景)



外觀透視図
(鳥瞰)



エントランスホール透視図
(夕景)



メインホール透視図
(音響反射板利用時：舞台より客席をみる)



メインホール透視図
(音響反射板利用時)



メインホール透視図
(プロセニウム舞台利用時)



メインスタジオ透視図
(スタンディング形式)



メインスタジオ透視図
(能舞台形式)



小音楽ホール透視図

はじめに

高崎文化芸術センターは、上信越と首都圏を結ぶ中心都市高崎の「文化都心」として、また「音楽のある街高崎」の新しいシンボルとして、高崎がいつも新しい都市文化をエキサイティングに生み出していく拠点となる都市集客施設です。

高崎文化芸術センターは、古今東西の多様なジャンルの音楽や舞台芸術を「鑑賞、創造、情報発信」する場となります。また、群馬交響楽団の創造活動の中心的施設としての役割を果たしていきます。そして、そのために必要なメインホール、メインスタジオ、小音楽ホール、リハーサル室やスタジオ群などの施設を持ち、それぞれの施設が高機能な舞台機構と質の高い音響水準を備えています。

高崎文化芸術センターは、上信越や北関東を代表する文化芸術施設として、広域的な視点での事業や活動を行い、高崎の都市としてのブランド力や集客力を高めていく施設でもあります。そして、市民の文化力や感性を育み、高崎発の音楽や舞台芸術を国内外に発信するクリエイティブな場となります。

群馬音楽センターは昭和36年に完成し、その後半世紀に渡り多彩な音楽や舞台芸術を市民に提供してきました。この記憶に残る多くの感動や共感を生み出してきた歴史を継承し、新たに進化、創生していくことが高崎文化芸術センターの使命です。

また、高崎文化芸術センターは、この施設を使う人、訪れたお客様に、質の高いサービス、おもてなし、環境を提供します。そして、市民が誇りと愛着を持つことのできる、21世紀の高崎を象徴する「美しい感性、高崎らしい文化、溢れる温もり」のある高崎文化芸術センターとしていきます。



外観夕景

Concept 1

上信越と北関東を 代表する高崎文化芸術センター

高崎文化芸術センターは、上信越、北関東最大の商都であり文都である高崎の文化芸術創造活動の中心施設とします。

高崎文化芸術センターは、メインホール、小音楽ホール、メインスタジオの3つの主要ホールで構成され、その機能や規模は日本を代表する「選ばれるホール」として、国際的な演奏会から市民ニーズにも対応した施設として、様々な音楽や舞台芸術に活用することができます。

高崎が、上信越と北関東を代表する文化都市の中心としての役割を担うために、高崎文化芸術センターは「鑑賞、創造、情報発信」をテーマに、広域的な視点での事業や活動を行い、新しい文化をエキサイティングに表現する施設とします。

Concept 2

「音楽のある街高崎」の歴史を進化、 創生する高崎文化芸術センター

1945年に戦後の焦土の中から新しい時代の希望として生まれた群馬交響楽団の70年の歴史。1961年に群馬音楽センターが建設され、多くの音楽や舞台芸術と出会いを創りだしてきた歴史。

そして、クラシックばかりでなくロックやポップスの分野でも日本を代表する多彩なアーティストを輩出してきた歴史。また、吹奏楽や合唱や伝統音楽など多彩で質の高い市民の音楽活動の蓄積。

高崎文化芸術センターは、このような高崎の音楽の歴史と精神と多様性を継承し、これからの21世紀の「音楽のある街高崎」の新しいシンボルとなる施設とします。

Concept 3

鑑賞者・演奏者・主催者の 誰にでも使いやすい高崎文化芸術センター

お客様、出演する人、主催する人、管理する人、全ての施設利用者にとって満足度の高い施設です。施設のエントランスから迷うことなくメインホール、メインスタジオ、小音楽ホールや様々な目的の場所に行くことのできる配置やアクセスの良さに配慮しました。

ユニバーサルデザインによる設計、ホスピタリティ溢れるサービスが導入されています。ワンストップカウンターを設置して、チケット、クローク、施設利用等あらゆるニーズに良質なサービスを提供するとともに、トイレの質感を高く設え十分な数を完備しています。

舞台やバックヤードも機能的で広いスペースや設備を確保し、十分な楽屋やリハーサル室やスタジオ群も備えています。

Concept 4

東西に連なるスクリーンが 高崎の新しい都市景観を映し出す

高崎文化芸術センターの建物は、水平ラインの外観を基調として、西側に建設が予定されている再開発ビルと一体感を醸し出す景観を形成します。透明感ある建物ファサードは内部の活動を賑わいとして映し出します。

道路に面した建物のガラスの壁面を通して見えるメインホールは重厚感を重視し、時代に左右されない普遍性の高い色彩として栗色を帯びた濃い赤茶色とし、印象的な都市景観を創り出します。

また、再開発ビルとの境界には憩いの場としてのプロムナードの計画を予定しています。

構成施設説明

“メインホール” —国内最大級の舞台面を誇る臨場感あふれる高機能ホール

1.あらゆる音楽や舞台芸術に対応可能な高機能な多目的ホール

幅広い演出に対応できる舞台機構や設備を備えた高機能な多目的ホールで、古今東西のあらゆる音楽や舞台芸術の公演に応えることができます。

2.舞台のスペースを十分に確保した演じやすい劇場

主舞台、側舞台を合わせた広大な舞台は、これまで群馬音楽センターでは不可能であった演出を可能とし、様々な大型の演奏会や舞台公演を実現します。

また、国内最大級の舞台間口の広さは、臨場感を増大し観客と舞台の一体感を生み出します。

3.クラシック音楽に優れた音響性能を発揮するホール

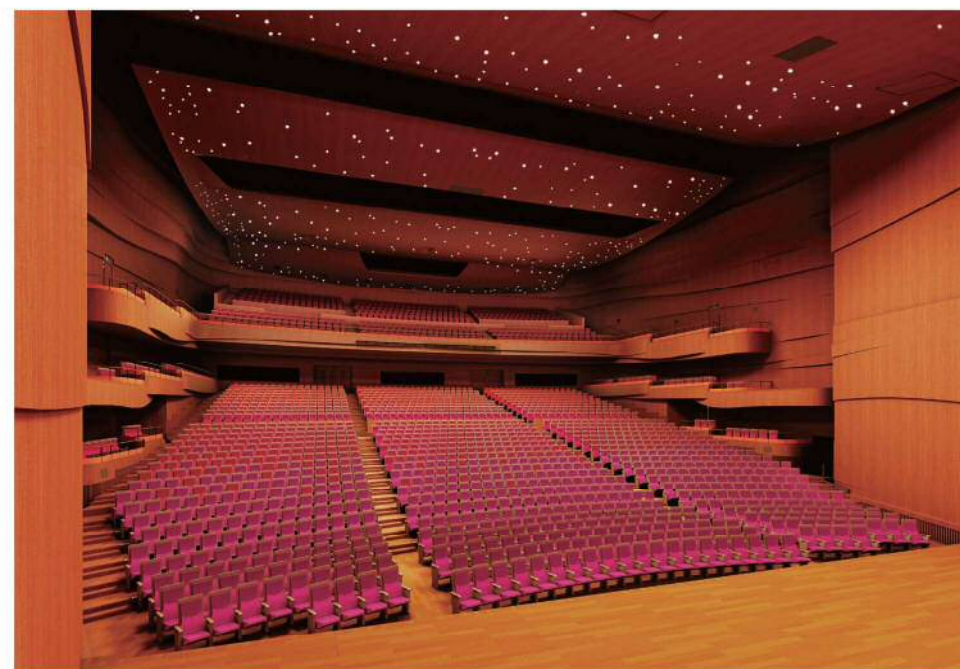
音響反射板使用時にはホール壁面が一体性を形成し、斬新なホール内部のデザインによりコンサート専用ホールと同様な音楽空間をつくりだします。オーケストラをはじめとしたクラシック音楽の生音の響きを客席の隅々まで響かせます。

4.機能的で広く充実したバックヤード

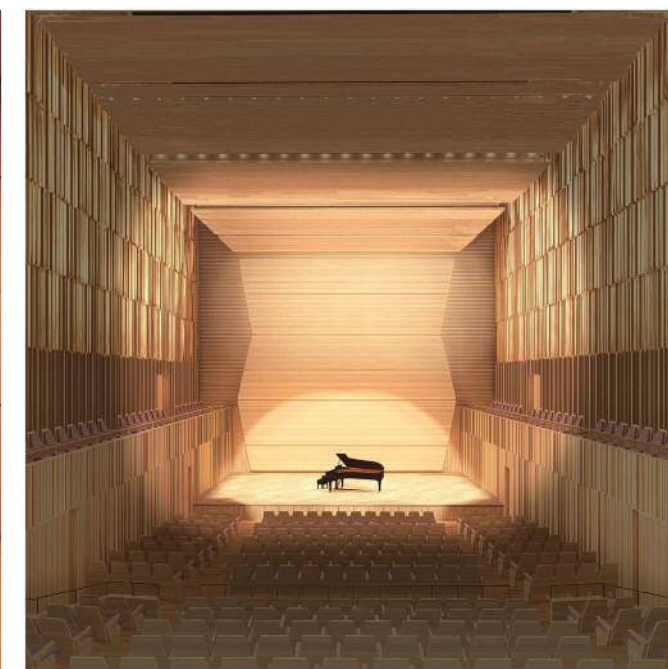
側舞台にダイレクトに搬入可能なサービスヤード配置、サブ搬入口の設置等、舞台スタッフや主催者に非常に使いやすい計画になっています。舞台裏での裏方の作業や備品の格納にゆとりをもたらします。

5.多様な音楽や舞台芸術を存分に堪能する重厚感ある客席空間

日本のホールや劇場で初めての新しいデザインにより生み出された空間です。2018席の大空間ながら低層で客席内の傾斜を抑え、質感が高く、心地がよい重厚感のある客席空間となっています。



メインホール



小音楽ホール

“メインスタジオ”

—フレキシブルな利用形態で無限の可能性を引き出す実験的な創造空間

1.様々なジャンルの表現活動に対応した機能と設備

奥行きが3間、5間に变化する舞台は、客席まで全てフラットにした平土間にも変化し、自由な空間形成が可能です。主催者の創造性をかき立てる舞台設備を備えた劇場です。

2.多彩な演出が可能な天井全面の照明設備

劇場内部は、黒を基調とし、天井全面に備えたライトブリッジにより思いのままの照明演出が出来ます。

3.使い勝手のよいコンパクトな劇場

舞台、楽屋、搬入経路が、グランドレベルでワンフロアに集約して設置されているので、効率的な利用を可能にしています。

4.ロックのライブから能舞台までの多様性

スタンディングで1000人の収容が可能なロックコンサートや、固定席に遜色のないローカルバック形式の可動席等で約560席の中劇場としても利用ができ、能、演劇、舞踊など幅広い公演が可能です。



メインホール(音響反射板利用時)



メインスタジオ（スタンディング形式）



メインスタジオ（能舞台形式）

“小音楽ホール” —群馬県初の本格的音楽専用ホール

1.音楽のある街高崎を象徴した本格的な音楽専用ホール

室内楽やリサイタルを上質な空間で鑑賞できる、群馬県初の本格的な響きにこだわった音楽空間です。

2.鑑賞しやすさにこだわったホール

リサイタルに最も適した約400席の空間で、どの座席からも舞台を近くに感じられ、見やすさも重視した鑑賞しやすいホールです。

3.柔らかな質感に包まれる至極の音楽空間

ホール全体は、木の優しい温もりに包み込まれた音楽空間です。音楽を演奏する人、聴く人の全てが憧れる品格・高感度・高音質をもった音楽の殿堂となります。

“スタジオ群”

—高崎発の音楽や舞台芸術の創造機能

1.様々な用途に対応する9つのスタジオ

多彩な表現活動を活性化させる特徴を持ったスタジオ群は、市民の多様なジャンルの創造活動を支えていきます。

2.群馬交響楽団の活動ベース

高崎に本拠地を置く群馬交響楽団を支援し、共に高崎の音楽文化を内外に発信していくために、群馬交響楽団の芸術活動を支えるための施設を設けます。

3.リハーサルや発表会に対応

メインホールの主舞台と同規模のスタジオ1は、本番前のリハーサルなどに利用できます。また、群馬交響楽団や高崎文化芸術センターがプロデュースする公演の練習場となります。小規模な発表会やワークショップなどにも利用が可能です。

“創造活動を育む特徴的な機能”

—「高崎らしさ」を発揮する

1.文化芸術創造活動のランドマーク

高崎文化芸術センターの創造活動に必要な機能や人材を集約するとともに、群馬交響楽団事務局スペースも確保し、高崎の文化芸術創造活動の中心施設としていきます。また、カフェ・レストランを設けて、賑わいと感性豊かなクリエイティブな施設としていきます。

2.西エリアのパブリックゾーンとの連携

西エリアの再開発ビルで整備が予定されている、「子ども図書館、キッズコーナー」「高崎経済文化活動スペース」等のパブリックゾーンの事業や活動との連携を計画します。

1-1. 計画概要

1.敷地概要

所在地	：高崎市栄町79-3
敷地面積	：10,983.22㎡
用途地域	：商業地域
防火地域等	：防火地域、準防火地域
建ぺい率	：100％（耐火建築物、角地緩和含む）
容積率	：600％
日影規制	：なし（但し計画地北方地区に日影規制あり）
地区計画	：高崎駅イーストサイト地区（B地区）
その他規制	：群馬県建築基準法施行条例 高崎市・安中市消防組合火災予防条例 高崎市景観条例 高崎市興行場法施行条例 高崎市における建築物に附置する駐車施設に関する条例

2.建築概要

建物名称	：高崎文化芸術センター（仮称）
用途	：多目的ホール、飲食店
階数	：地上8階、地下1階
規模・構造形式	：鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、コンクリート造
建築面積	：8,826.01㎡
延床面積	：27,355.15㎡
最高高さ	：38.47m

※全頁において、諸室の名称、面積・数値等は今後の調整により変わることがあります。

3.主な構成

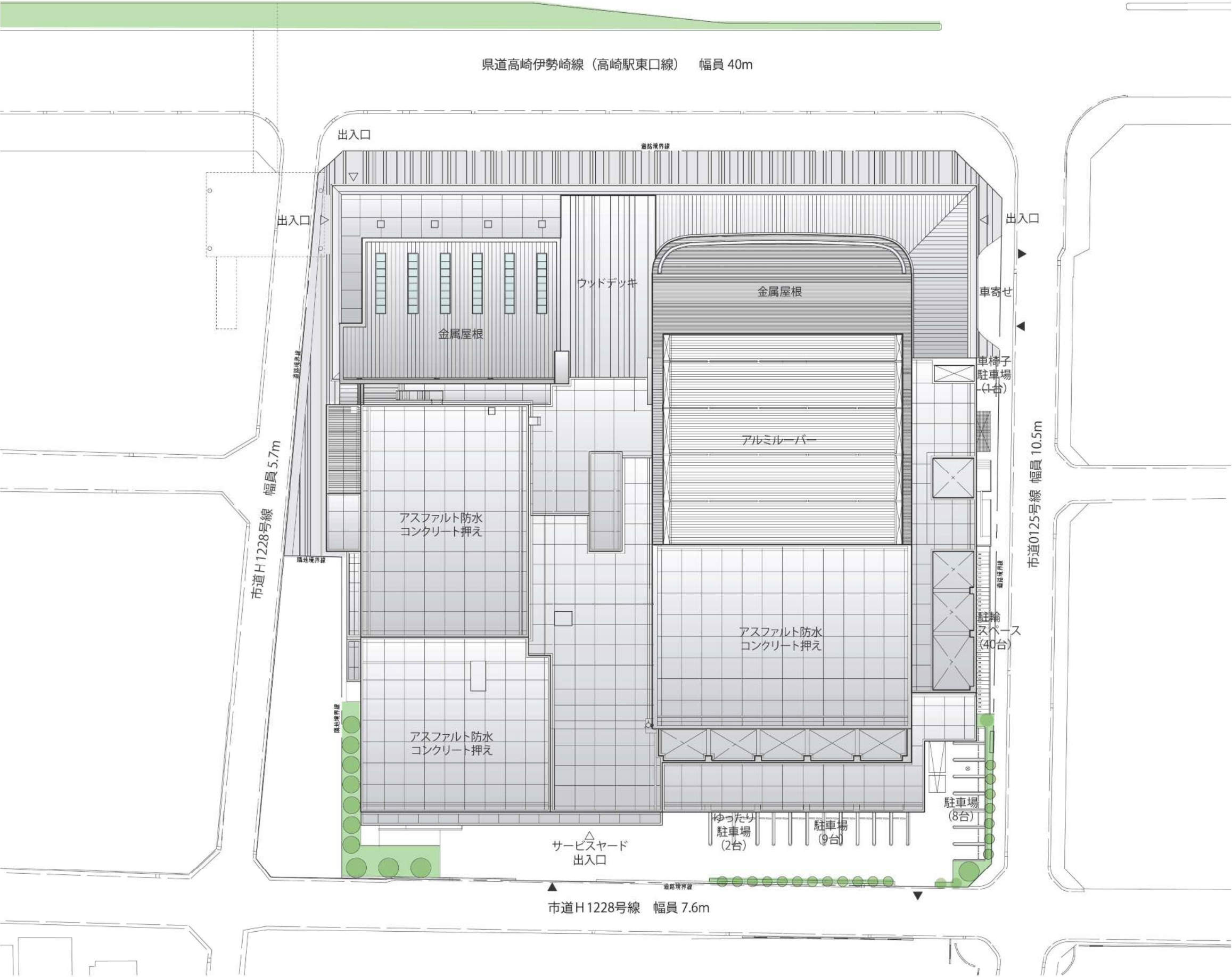
メインホール	
・客席計画	：2,018席、車椅子4席、多目的ホール （主階席、バルコニー席、サイドバルコニー席） 客席基準寸法 前後間隔950mm、幅520mm
・主舞台	：プロセニウム舞台仕様 間口18m(10間)（最大間口約28m）、奥行18m(10間) 音響反射板仕様 間口23m、奥行14.2m
・プロセニウム高さ	：14m～11m（可変）
・舞台機構	：オーケストラピット 音響反射板、吊物バトン、照明バトン

メインスタジオ	
・客席計画	：エンドステージ形式 567席、車椅子1席 客席基準寸法 前後間隔950mm、幅520mm スタンディング形式 約1,000名 平土間利用
・主舞台	：間口約18m 奥行5.4m(3間)又は9.0m(5間)（舞台迫による可変対応） 天井有効 約8.0m
・舞台機構	：舞台迫 移動観覧席 吊物バトン、照明バトン

小音楽ホール	
・客席計画	：413席、車椅子2席、音楽専用ホール 客席基準寸法 前後間隔950mm、幅520mm
・主舞台	：間口約12m、奥行約7m
・舞台機構	：吊物バトン、照明バトン

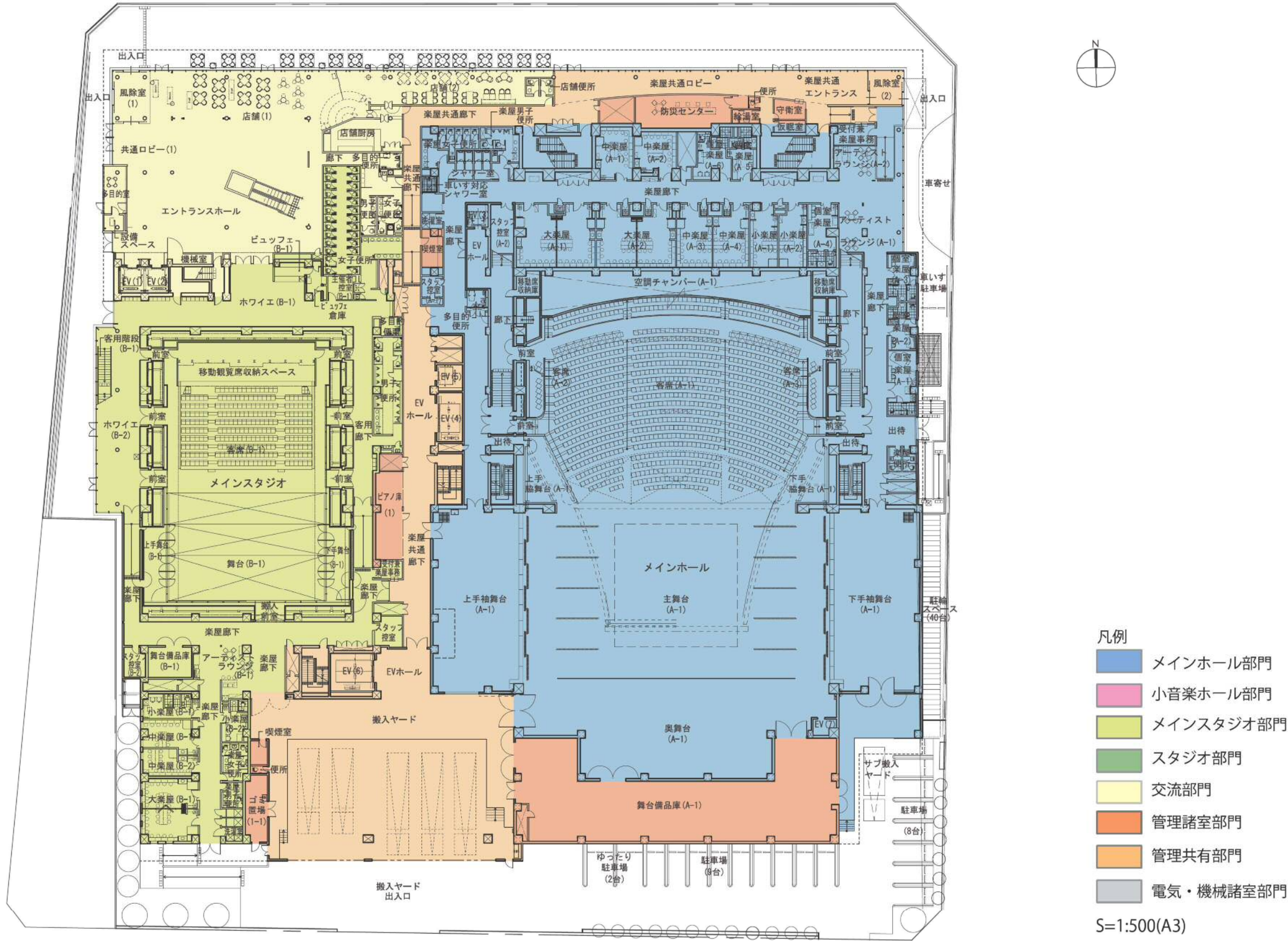
スタジオ	
・主な使用用途	：リハーサル利用、アコースティック利用 多目的利用（アコースティック、ダンス、合唱、ワークショップ等）
・規模・性能・仕様	：全スタジオ：浮床構造（防振・防音） スタジオ1：約330㎡、レッスンバー、鏡 スタジオ2～9：約25㎡～約41㎡、鏡（スタジオ5、6）

2-1. 配置計画図

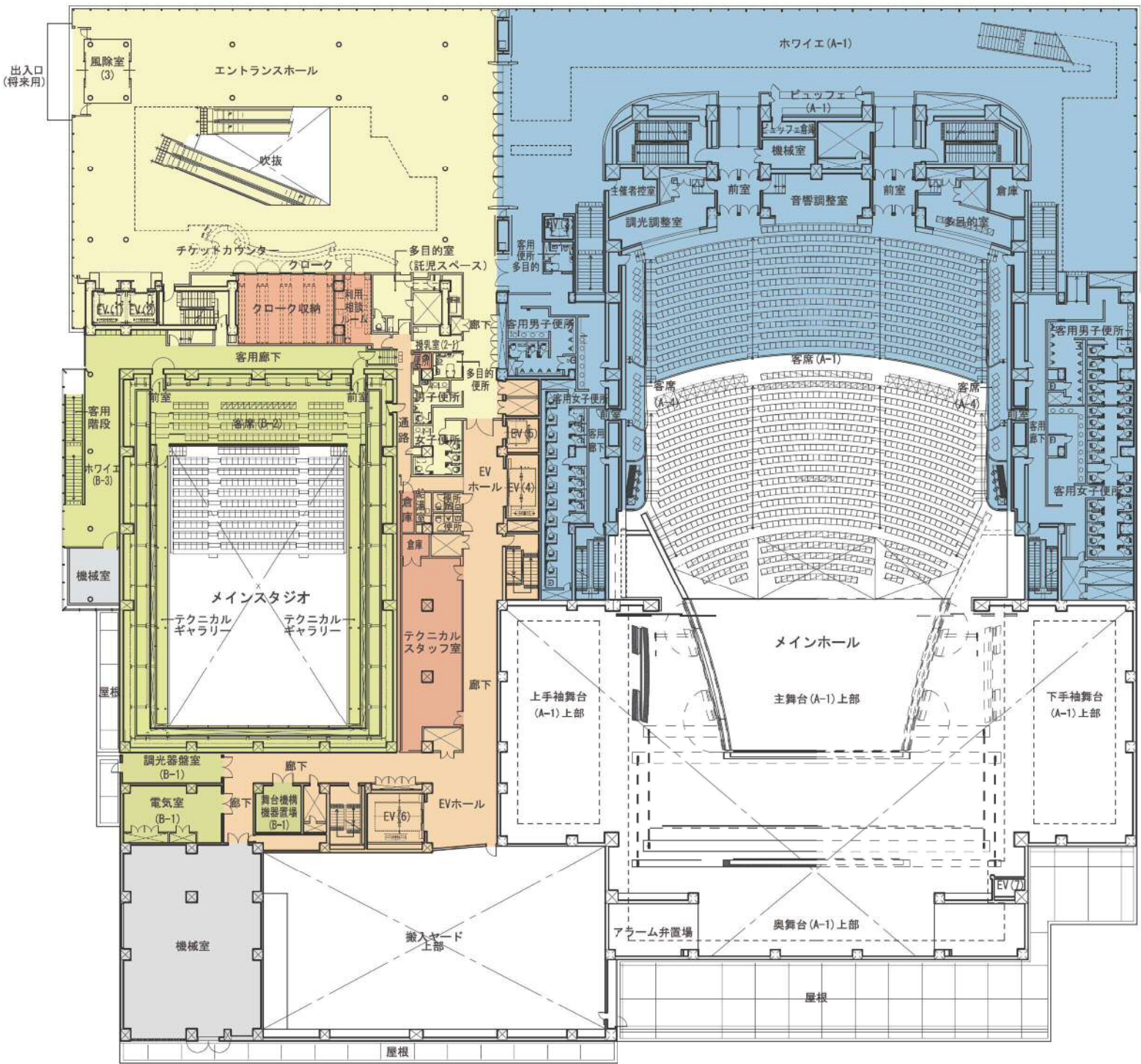


※屋上に設置される設備機器類は、表現されておりません

2-2-1. 1階平面図



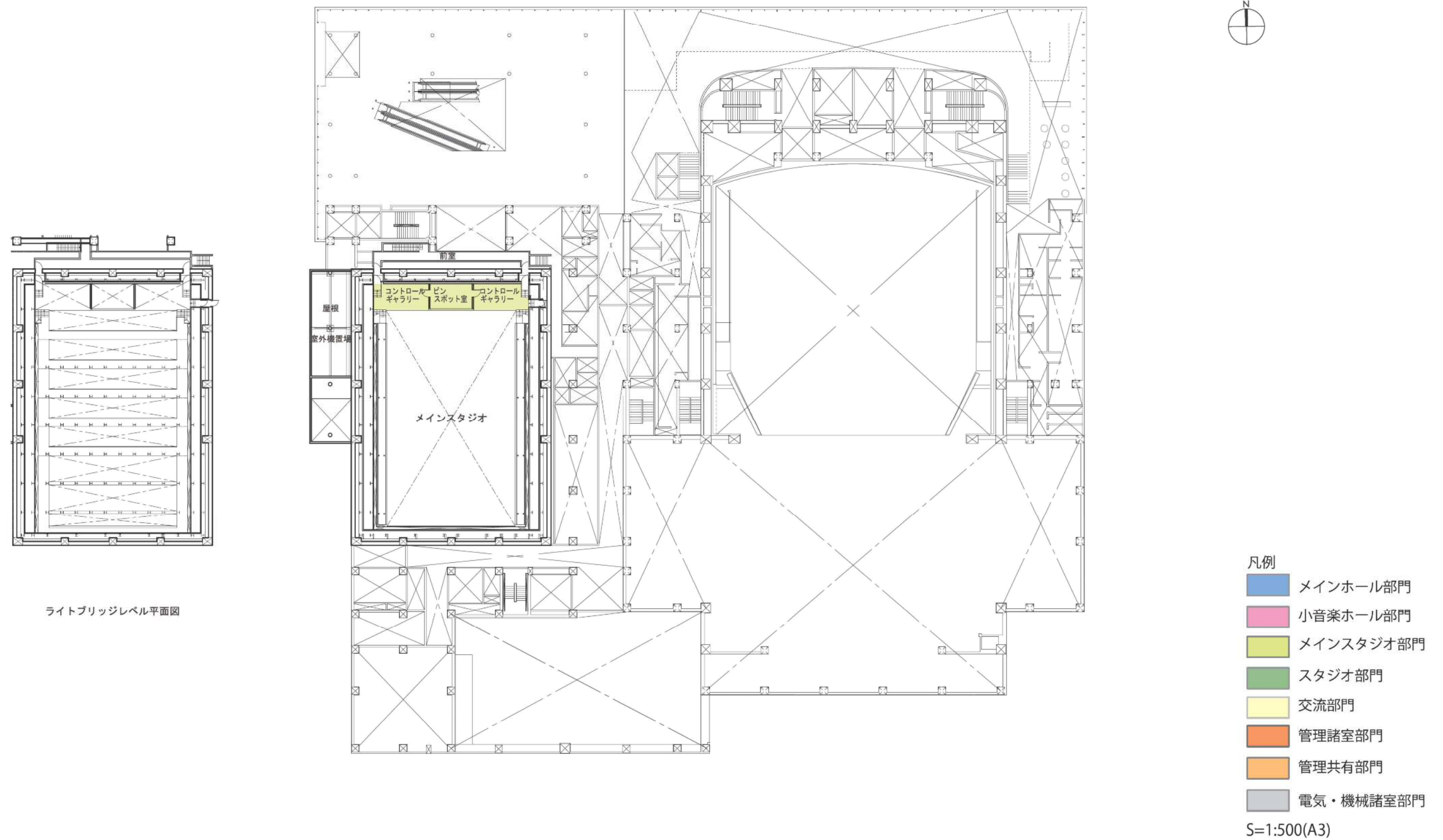
2-2-2. 2階平面図



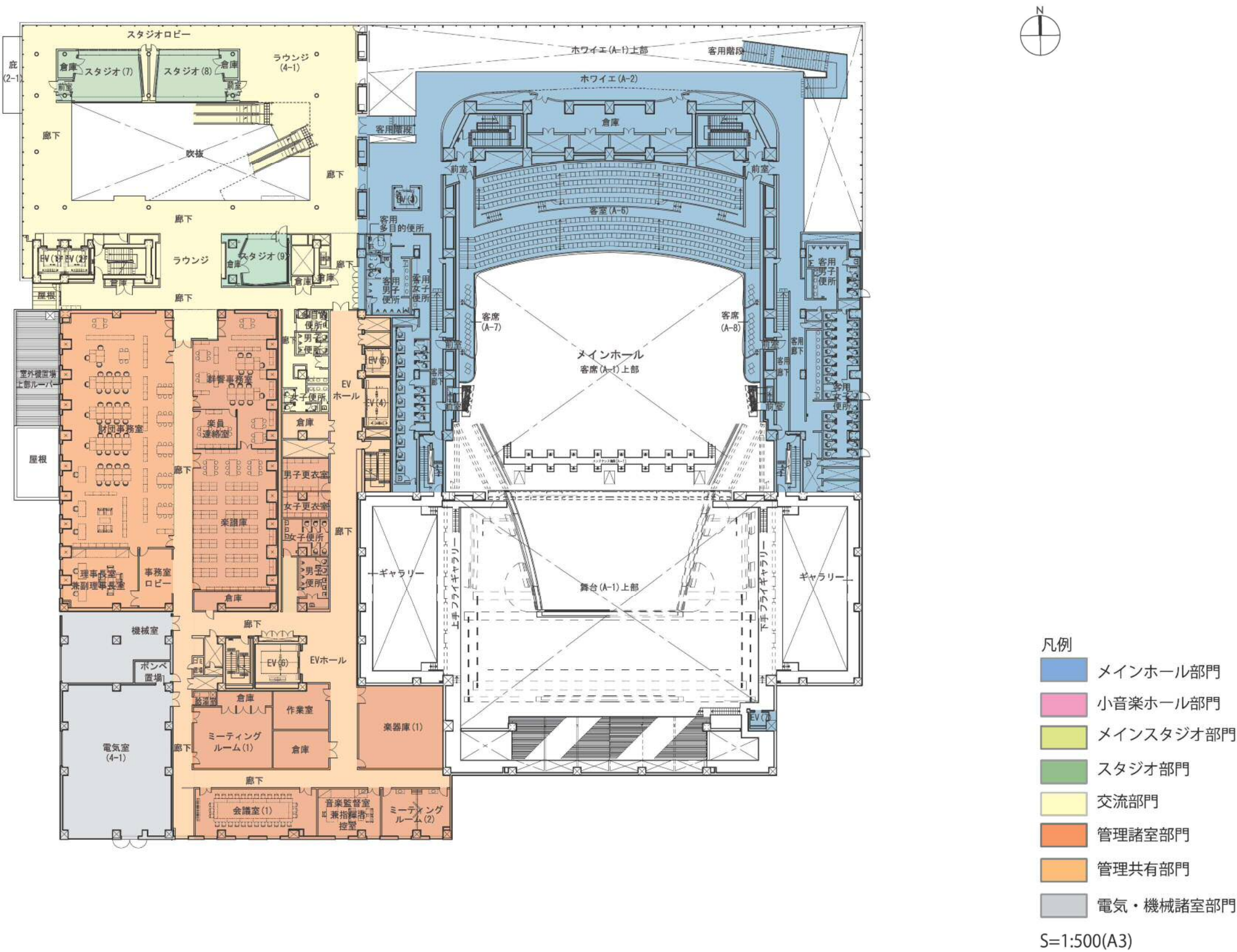
- 凡例
- メインホール部門
 - 小音楽ホール部門
 - メインスタジオ部門
 - スタジオ部門
 - 交流部門
 - 管理諸室部門
 - 管理共有部門
 - 電気・機械諸室部門

S=1:500(A3)

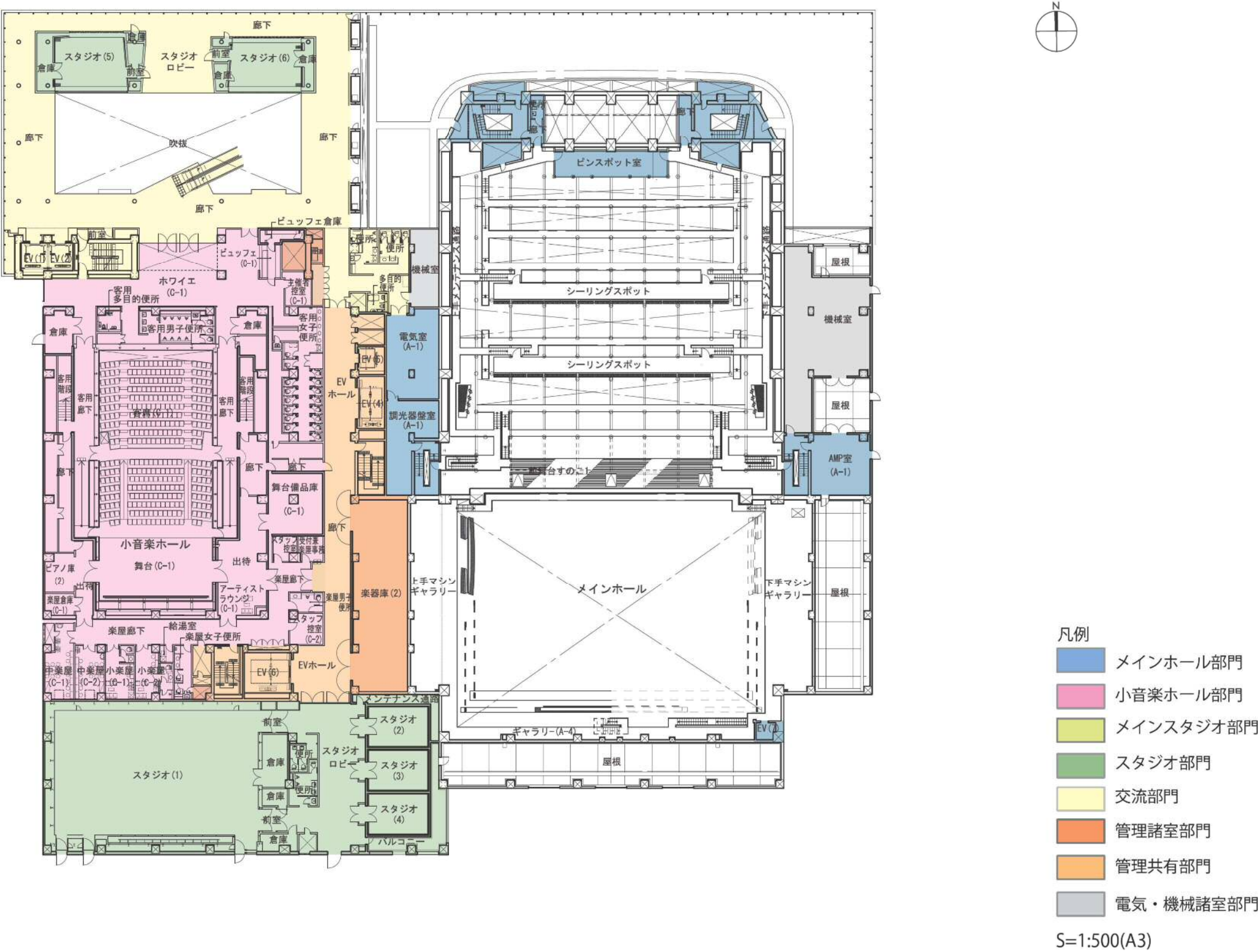
2-2-3. 3階平面図



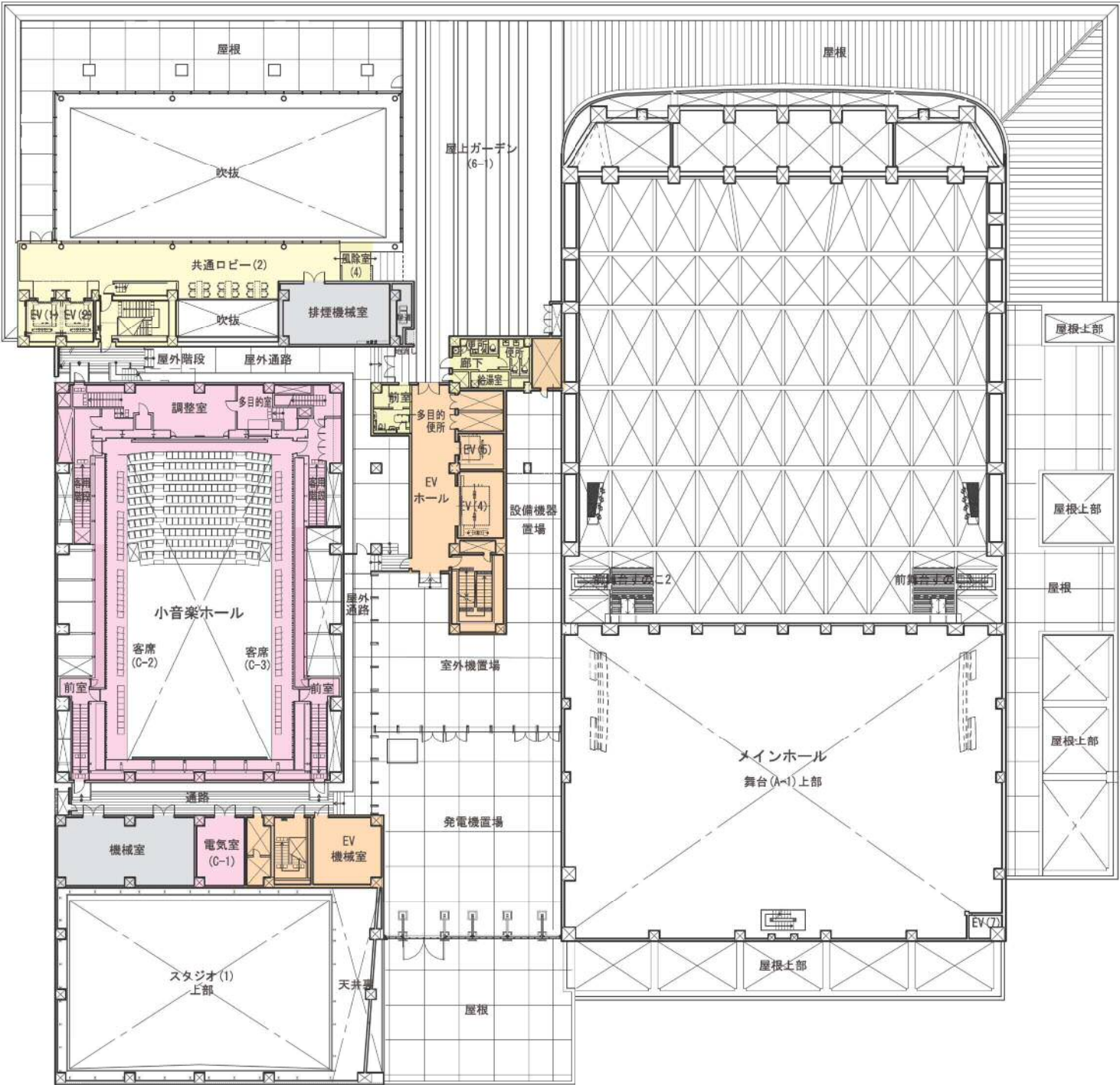
2-2-4. 4階平面図



2-2-5. 5階平面図



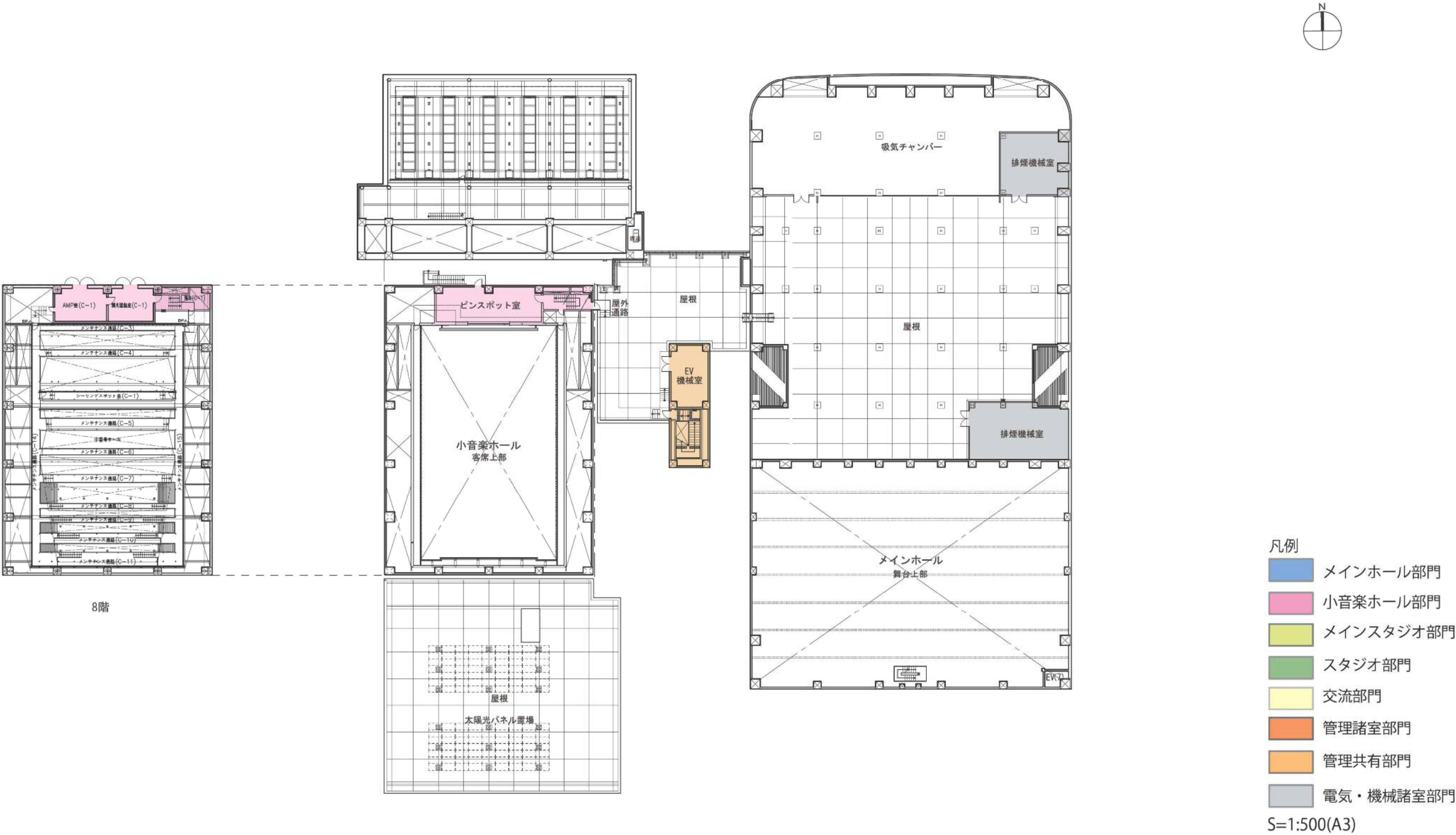
2-2-6. 6階平面図



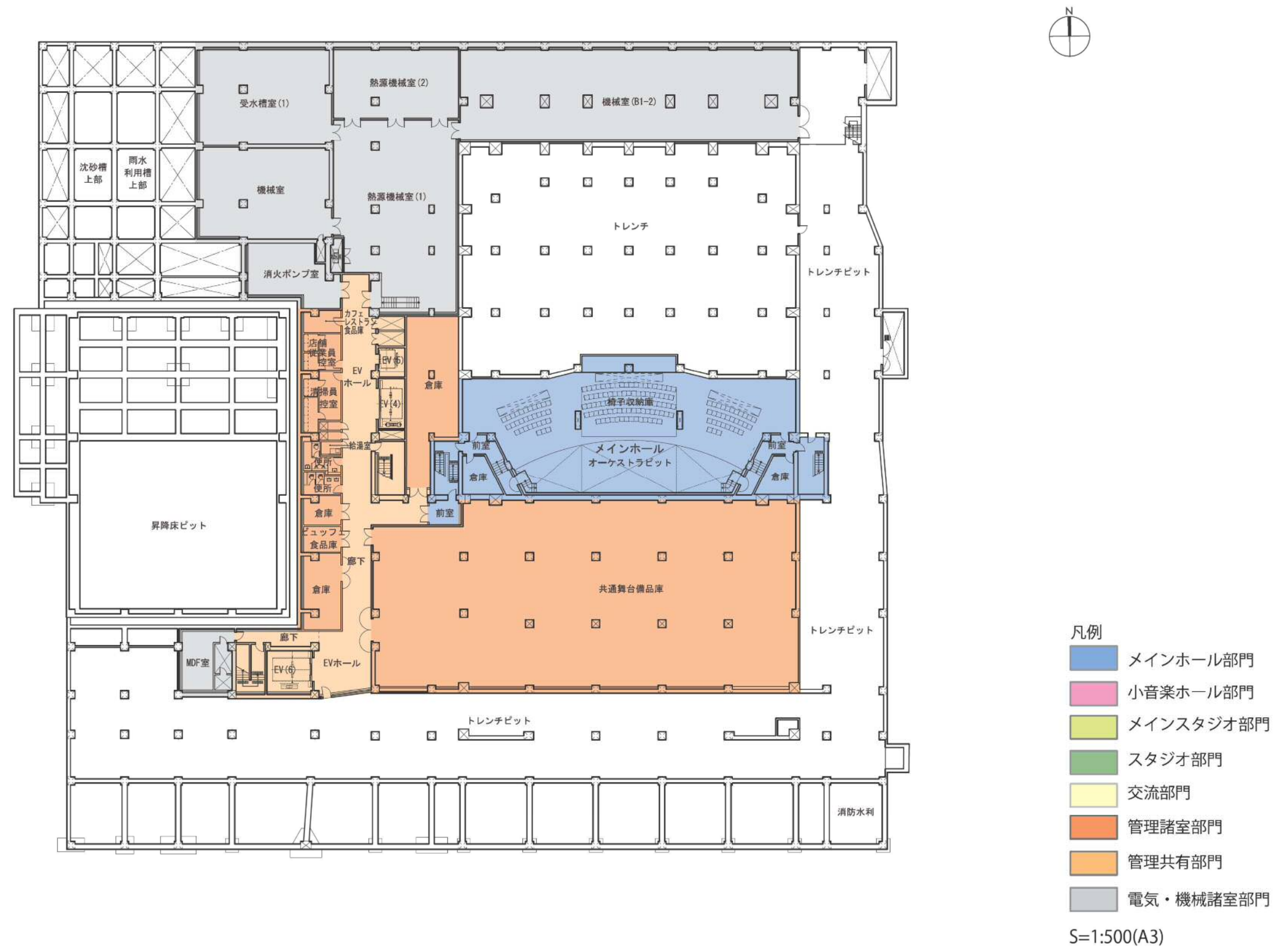
- 凡例
- メインホール部門
 - 小音楽ホール部門
 - メインスタジオ部門
 - スタジオ部門
 - 交流部門
 - 管理諸室部門
 - 管理共有部門
 - 電気・機械諸室部門

S=1:500(A3)

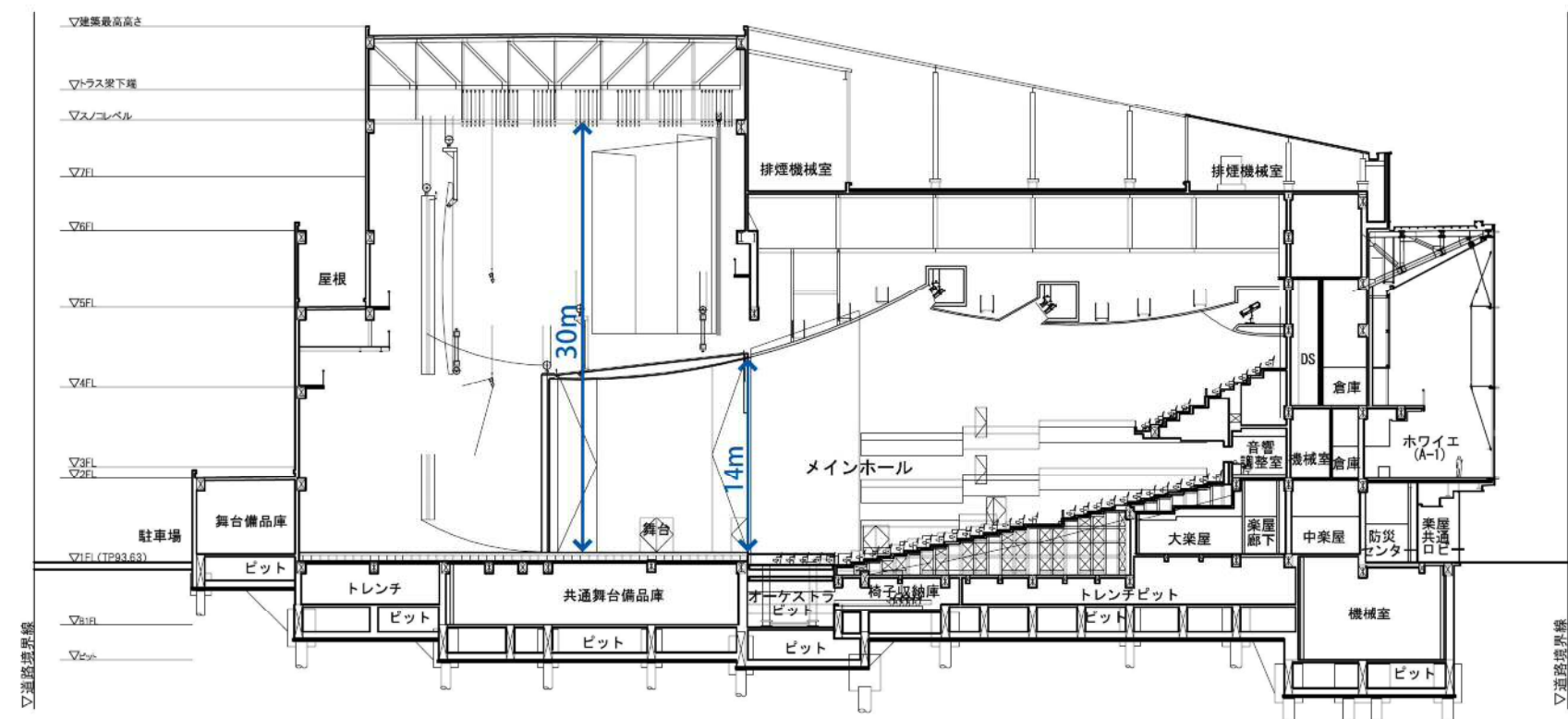
2-2-7. 7階平面図, 8階平面図



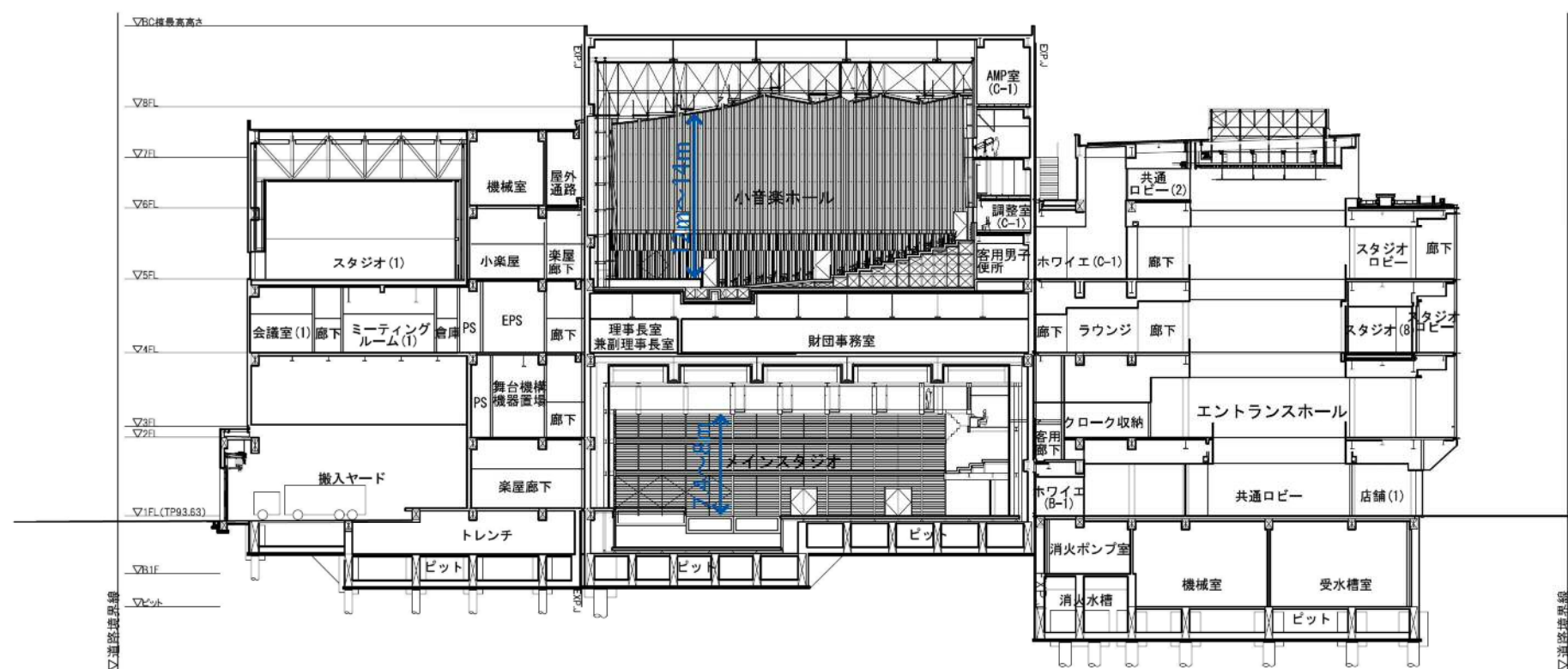
2-2-8. 地下1階平面図



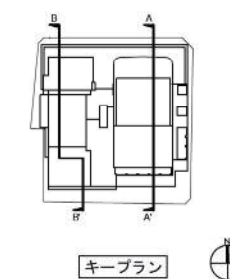
2-3. 断面計画



断面図1

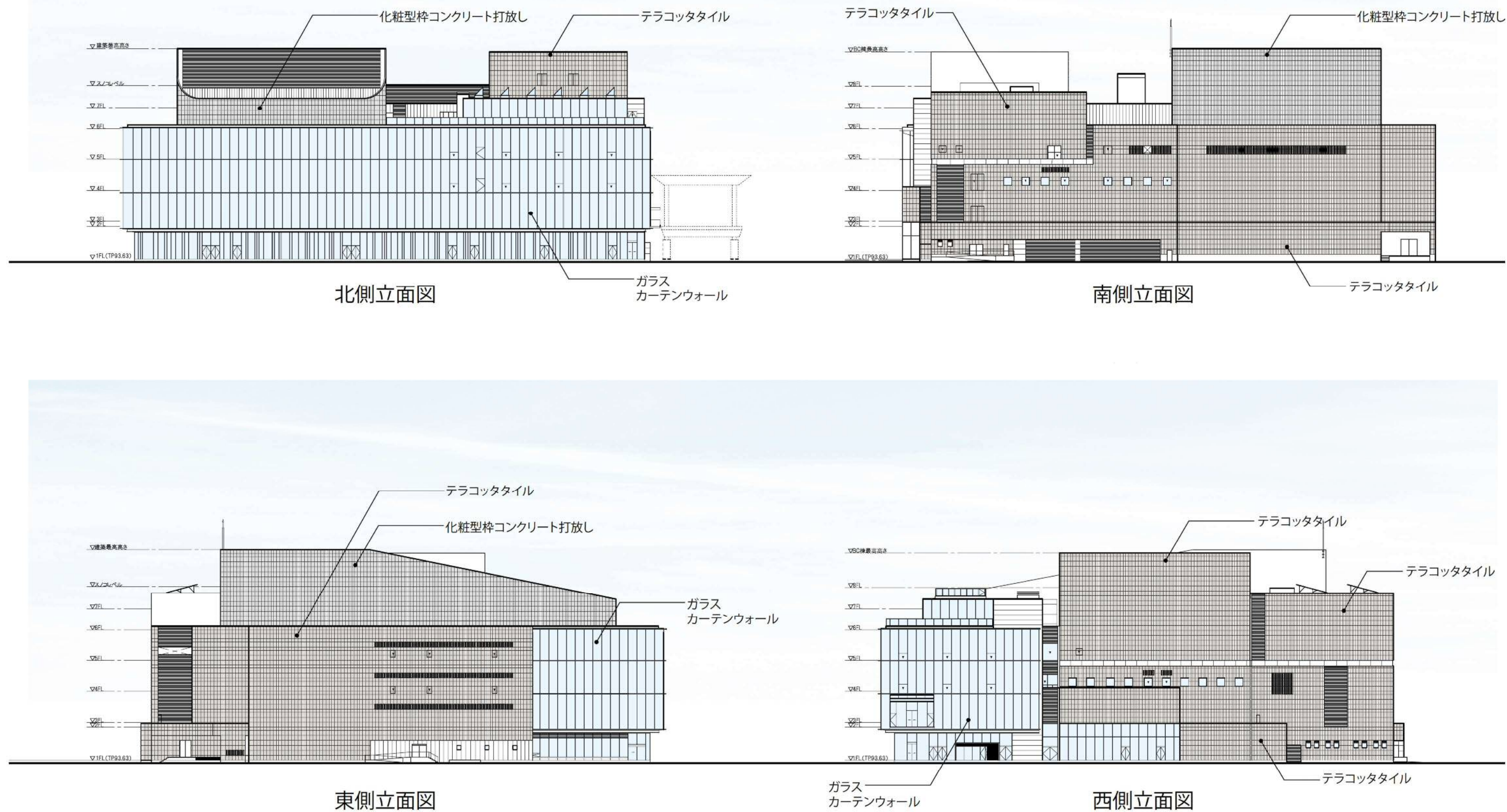


断面図2



S=1:500(A3)

2-4. 立面計画



S=1/700 (A3)